

英語科 授業の様子 授業者：齊藤 優

英語科では第2学年「Friends from Singapore」の単元で授業を公開しました。単元のねらいは「自分のおすすめる文化体験活動について、事実、考え、気持ちなどを友や ALT、教師と伝え合うこと【話すこと〔やり取りイ〕】」です。本時は、附中でできる文化交流活動を決め出すやり取りをする場面で、三人グループで1回目のやり取りをして、提案内容と決め手を関わらせていたグループのやり取りを内容面と言語面から振り返った後、自分の考えをメモに整理し、メモを基に2回目のやり取りをすることを通して、決め手を明確にして、簡単な語句や文を用いて、互いの考えを伝え合うことを目指しました。

【導入】教師は、Lesson Goal を示し、2名の生徒と、これまで単元を通して行ってきたように、「we can do」、「only Japan」など、視点ごとにやり取りするモデルを示しました。そして、“Can you discuss like this and decide one idea?” という問い掛けに対する生徒の “Yes, we can.” という反応から、Today’s Goal: Let’s discuss our ideas for students from Taiwan を設定しました。

【展開】教師は、1回目のやり取りから、提案を一つに決め出せたグループのやり取りを全体で共有しました。そこでは、焼きおにぎり作り、たこ焼き作り、すごろくを提案する3名の生徒が、「everyone can enjoy」、「easy to do」などの視点を決め手として考えを伝え合いました。共に同じ視点を用いて話していたため、なかなか一つに決め出すことができませんでしたが、「Challenging」という視点を用いて、“I think *sugoroku* is easy, but not challenging.” という T 生の発言から、“Making



yakionigiri is easy too, so making *takoyaki* is the best.”と続き、グループ内の提案を決め出すに至りました。このやり取りから、M生とA生の「何が一番大切な決め手なのかを比較して話していけばよいのではないか。そうすることで決められそうだ。」という内容面の気づきを全体で共有し、言語面では比較表現を確認しました。2回目のやり取りでは、グループ内で一番大切にしている決め手を、「more」や「most」を用いて比較し、決め手を明確にして考えを伝え合うことができました。そして、多くのグループが一つの活動を決め出すことができました。また、事前に行った活動の自己評価が適切なのかに注目してやり取りしていたグループの考えを共有し、今後の見通しを確認しました。



【終末】Today’s Goal について、言語面と内容面から振り返る場面では2名の生徒の発言を共有しました。K生は、「紙相撲トーナメント」を「紙相撲リーグ戦」にするまでのやり取りから、グループで決め手を比較した上で、一つの活動を決め出し、さらによりよい活動へと調整をすることができたと振り返りました。W生は、やり取りをした3人の活動の長所と短所が混ざり、やり取りが平行線で決め出すことができなかったことから、「台湾の中学生にとって何が一番重要か」を考えていくことが必要ではないかと振り返りました。



【研究会のまとめ】研究会では、振り返りの場面の生徒の様子から、「決め手は『台湾の中学生にとって』何が一番大切なのかに対する答えなのではないか。」というご助言をいただきました。今後は、訪日教育旅行の目的や意義などに立ち返ってやり取りすることで、学級として納得のいく文化交流活動を決め出していきたいです。また、生徒の学び合う姿や、できる限り英語を使ってやり取りしようとする姿に、肯定的な意見をいただきました。今後は、生徒の声や願いから授業を作ることをより大切にしていきたいです。